

豚 肉 情 勢

1月7日 更新 JA全農ミートフーズ株式会社

項 目		内 容	備 考					
供給	1.国産	○ 令和2年11月度全国の肉豚出荷頭数は1,452千頭(農林水産統計12/25公表 前年同月比102.4%、前月比98.1%)となった。 11月の全国地域別出荷頭数を前年同月比で見ると、北海道104.3%、東北99.9%、関東103.4%、北陸甲信越100.6%、東海105.9%、近畿106.2%、中四国99.8%、九州・沖縄102.5%となった。 ○ 令和2年12月の全国と畜頭数は、速報値で1,497千頭(12/28まで集計)、前年同月比101.2%となっている。稼働日数では昨年と同じ21日となり、1日当たりの平均と畜頭数は速報値段階で71,300頭となっている。(前年は70,452頭/日) ○ 農水省食肉鶏卵課令和2年12月18日付肉豚生産出荷予測によると、今後の出荷予測頭数は令和3年1月1,393千頭(前年同月比96%)、2月1,307千頭(同99%)、3月1,409千頭(同98%)、4月1,365千頭(同94%)となっている。	国内生産量の推移 農水省出荷予測 (千頭:%)					
			暦年	国内出荷頭数 千頭 前年比		暦年	出荷予測 頭数 前年比	
			H28年	16,379	101.7	R3年 1月	1,393	96
		H29年	16,338	98.3	R3年 2月	1,307	99	
		H30年	16,429	100.6	R3年 3月	1,409	98	
		H31年	16,320	99.3	R3年 4月	1,365	94	
		R2年 8月	1,269	100.9	令和2年12月18日更新			
		R2年 9月	1,347	104.7				
		R2年 10月	1,481	101.1				
		R2年 11月	1,452	102.4				
2.輸入		○ 令和2年11月の輸入通関実績は豚肉全体で70.5千ト(前年同月比85.2%、前月比97.3%)となった。 内訳はチルドが38.5千ト(前年同月比105.8%、前月比109.8%)、フローズンが31.9千ト(同69.1%、同85.6%)となった。 主な国別では、チルドが米国20.3千ト(前年同月比 116.4%)、カナダ17.0千ト(同94.0%)、メキシコ1.1千ト(同138.7%)となった。 フローズンは、デンマーク7.2千ト(前年同月比83.3%)、メキシコ6.6千ト(同79.9%)、スペイン5.0千ト(同51.6%)、米国3.1千ト(同98.7%)、カナダ2.3千ト(同56.2%)となっている。 チルドは北米工場の稼働率回復が進んでいることに加え、底堅い内食需要に支えられたことにより、前年を上回る結果となった。フローズンは国内在庫が高水準であることに加え、前年同月の輸入量が多かった反動で前年を大幅に下回る結果となった。	輸入量の推移 財務省・通関実績					
			暦年	輸入数量 ト 前年比		チルド数量 ト 前年比		
			H28年	861,149	108.9	355,501	110.3	
			H29年	932,048	108.2	398,847	112.2	
			H30年	924,971	99.2	406,752	102.0	
			H31年	958,963	103.7	407,360	100.1	
			R2年 9月	65,468	83.7	32,591	111.0	
			R2年 10月	72,480	86.3	35,096	95.6	
			R2年 11月	70,550	85.2	38,552	105.8	
需要	1.家計消費	○ 総務省発表の令和2年10月期家計調査報告によると、全国二人以上の1世帯当たり豚肉購入数量は1,915g(前年同月比105.9%)、支出金額が2,751円(同107.7%)となっている。	家計消費量 (㊦, 円, %)					
	2.小売動向 11月概況	○ 日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の11月の販売統計速報によると、既存店ベースでの畜産部門の売上高は1,127億円(前年同月比104.9%)となった。家庭内消費需要が堅調であり、全般的に好調だったとしている。鍋物食材の引き合いが強く、なかでも鶏肉がよく売れた。牛肉は平日が輸入牛や切落し、週末が和牛ステーキなどの高単価の商品が好調で、豚肉は鍋商材の荷動きが良かったが、国産豚が相場高の影響で伸び悩んだ店舗もあったとしている。ハムなどの加工品は家庭用、ギフト用ともに好調だったとの報告がなされた。 ○ 日本チェーンストア協会が公表した11月販売概況によると、畜産品の売上は883億円(店舗調整後で前年同月比105.0%)となり、2月以降10か月連続で前年実績を上回り、前月比でも100.5%を上回る結果となった。	全国1世帯当たり					
				暦年	数量 前年比		金額 前年比	
			H28年	20,431	103.0	29,484	99.3	
			H29年	20,785	101.7	30,025	101.8	
			H30年	21,514	103.5	30,591	101.9	
			H31年	21,178	98.4	29,637	96.9	
			R2年 7月	1,845	107.3	2,671	113.3	
			R2年 8月	1,827	112.1	2,710	116.1	
			R2年 9月	1,769	104.2	2,605	106.8	
			R2年 10月	1,915	105.9	2,751	107.7	
	12月概況	○ 12月は新型コロナウイルス感染者数が増加するなか、底堅い内食需要を反映し、全般的に量販店などの販売が底堅く推移した。 輸入チルドボークは通関遅れが生じ一部アイテムで品薄感が強まるなか、量販店などで鍋物商材が好調に推移し、特にベリーなどのスライス系のアイテムの荷動きが良く、全体的に堅調な荷動きとなった。冷蔵部位では野菜価格の値下がりや気温が低くなったことによる鍋物需要があり、バラ・カタロースの引合いが強く、一方でモモ・ウデ、ひき材の荷動きは芳しくなかった。冷凍品の国産物はバラ・カタロースが堅調な荷動きとなり、輸入物については、外食需要の回復傾向が失速するなか、全体的に荷動きは静かで、依然として高い在庫水準となっている。	加工品仕向量 市況の推移(東京市場)					
			暦年	加工品仕向量 千ト 前年比		暦年	豚枝肉「上物」 円/kg 前年比	
			H28年	370.5	98.9	H28年	524	93.7
			H29年	376.6	101.6	H29年	569	108.6
			H30年	376.6	100.0	H30年	518	91.0
			H31年	372.1	98.8	H31年	524	101.2
			R2年 7月	33.2	102.1	R2年 9月	621	112.1
			R2年 8月	30.2	98.8	R2年 10月	538	107.2
			R2年 9月	30.1	99.8	R2年 11月	531	116.5
			R2年 10月	32.5	98.1	R2年12月速報	532	104.3
在庫	1.在庫	○ 農畜産業振興機構発表の令和2年10月末の推定期末在庫量は、204.1千ト(前月比95.8%、前年同月比93.3%)となった。 内訳は、輸入品の在庫が184.8千ト(前月比95.6%、前年同月比93.0%)、国産品が19.3千ト(同98.2%、同96.1%)となり、輸入品・国産品ともに前年を下回る結果となっている。						
	枝肉相場	1.R2年12月速報値	○ 令和2年12月の東京食肉市場枝肉相場は、速報値(12/28時点)で532円/kg(前年同月比104.3%、前月比100.1%)となった。 需要面では新型コロナウイルスの影響により内食需要が継続しており、量販店などの荷動きが堅調であった。供給面では輸入チルドボークが北米からの入船遅れがあり、全国と畜頭数は前年同期を上回る出荷となった。相場は初旬が弱含みとなったものの、新型コロナウイルス感染者数の増加による影響で帰省などを自粛する動きなどに伴い内食需要が継続したことから、全体としては前年同月を上回る結果となった。					
		2.予測 R3年1月	○ 農畜産業振興機構発表の1月出荷予測頭数は1,393千頭(前年同月比96.5%)と予測している。 1月については①供給面において、輸入品の入荷が入船遅れにより不安定で、国内生産量が前年を下回ると見込まれ、②需要面において内食需要が継続すると見込まれることに加えて、非常事態宣言が発出されることもあり、相場は乱高下を繰り返しながら底堅い展開と予測する。 ただし、新型コロナ感染者数が増加しており、行政対応等による相場への影響には引き続き注視が必要である。 ＜相場予想: 東京市場、税込み＞					
			R2年11月実績	R2年12月速報値	R3年1月予測	R3年2月予測		
			【上物】(前年比)	531円(116.4%)	532円(104.3%)	570円(124.2%)	570円(131.3%)	